

2009年11/21(土)第4回九州放射線医療技術学術大会 沖縄
17:00-17:50 第3会場

九州部会セッション“論文を書いてみよう”

論文投稿の現状と課題

九州大学大学院医学研究院保健学部門

杜下淳次

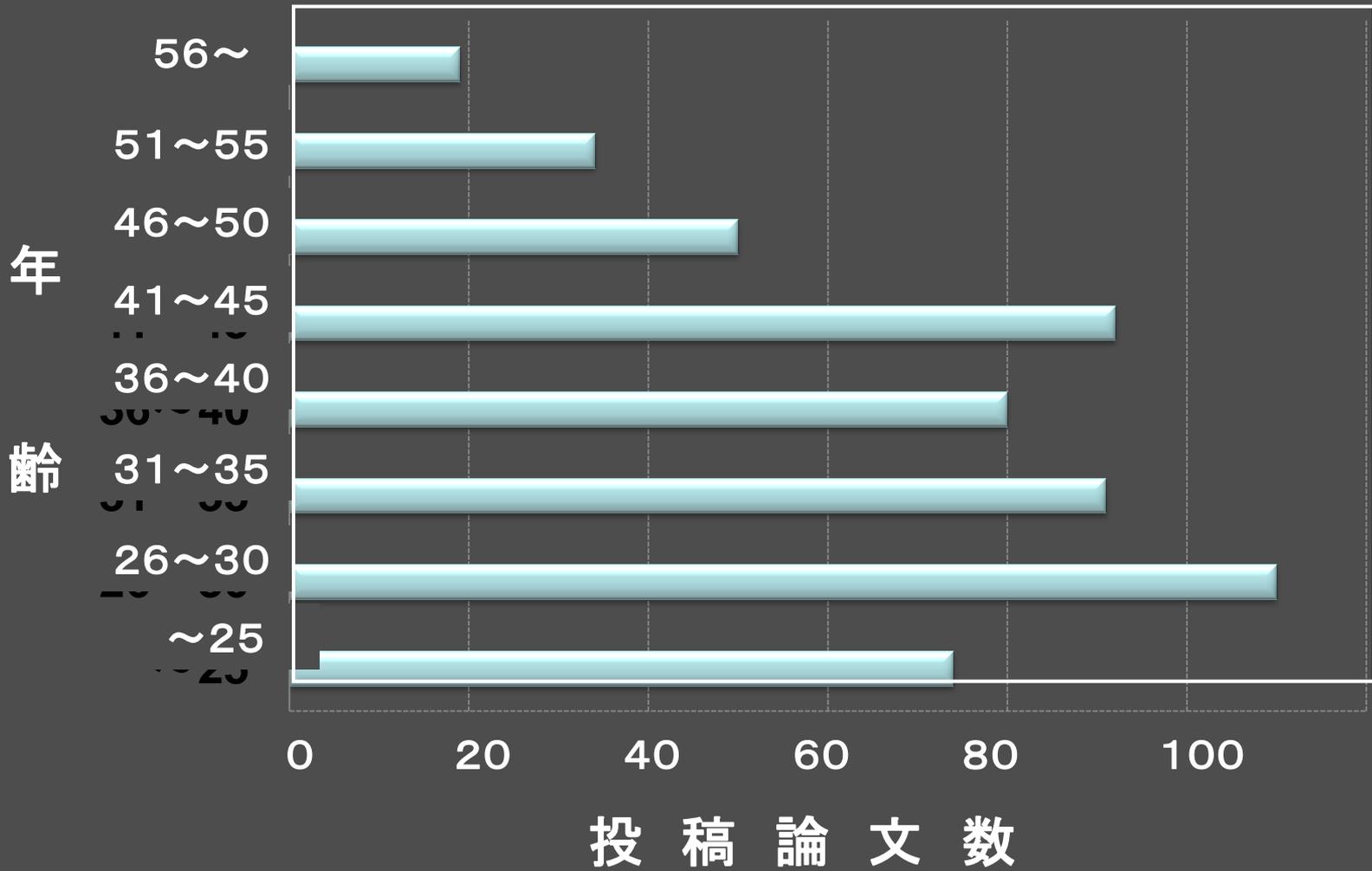
投稿論文傾向調査： 6年間の投稿数

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	計
投稿論文数	87	96	104	73	97	93	550
採用	75	84	84	64	70	42	419
取り下げ	11	6	8	4	6	11	46
棄却	1	6	12	5	4	2	30
審査中	0	0	0	0	17	38	55
採択率	86.2	87.5	80.8	87.7	72.2	45.2	82.9

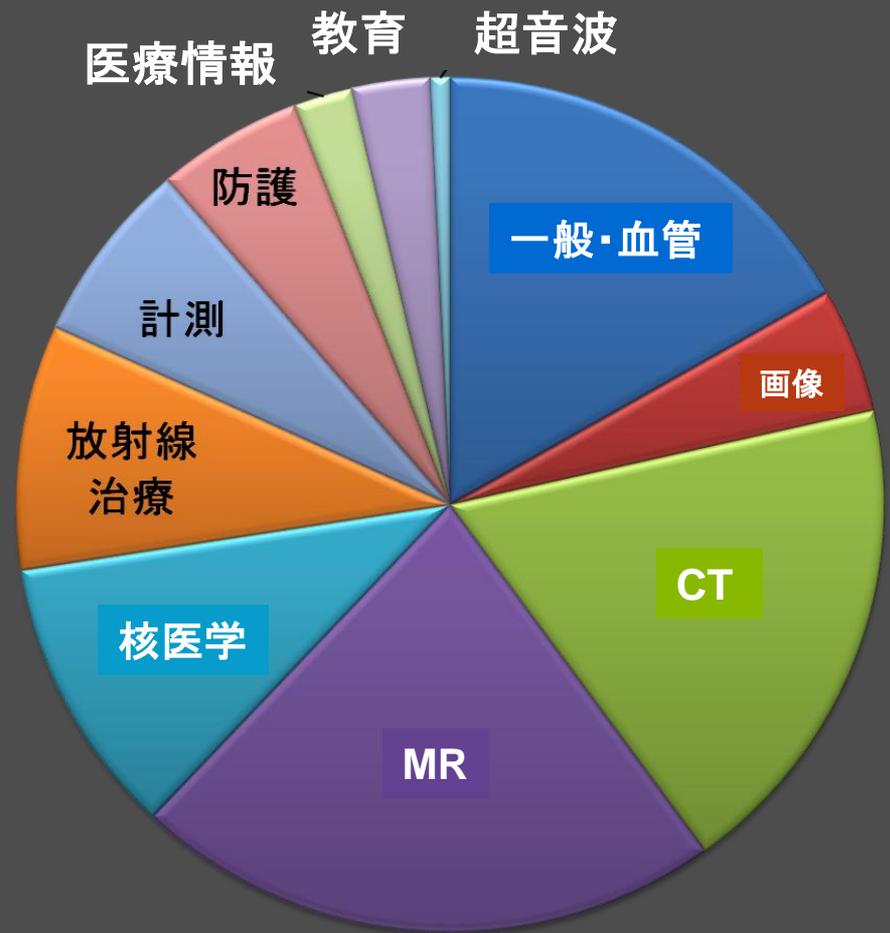
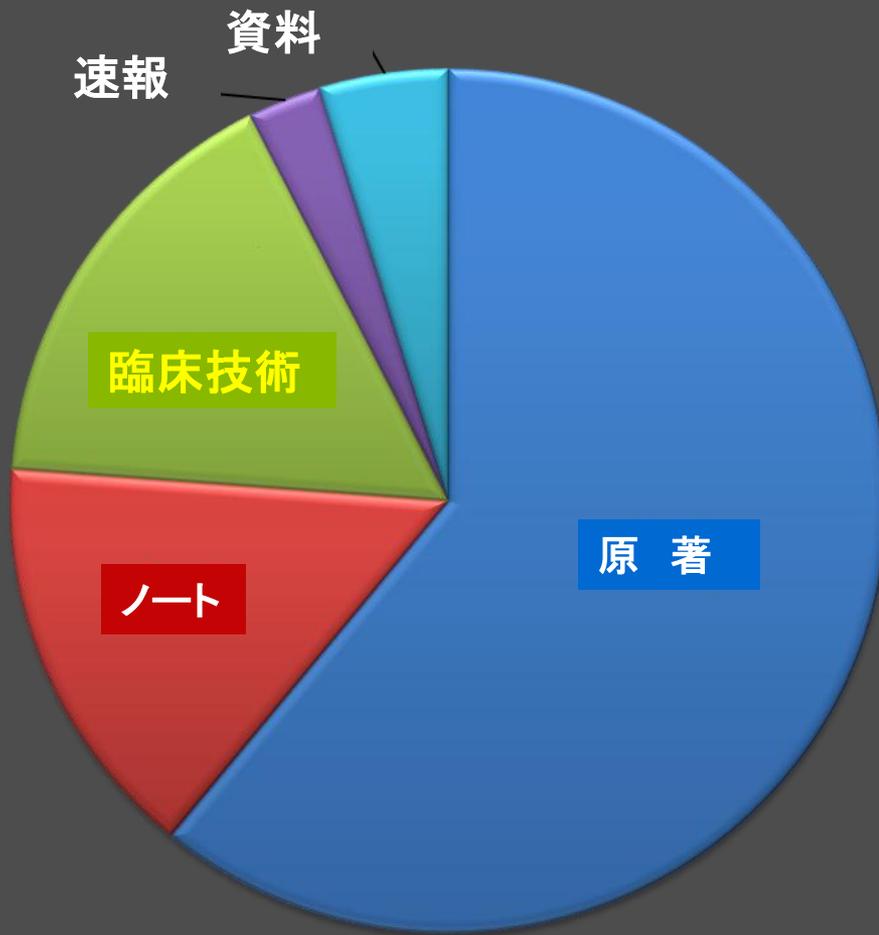
投稿数は,毎年約90編

掲載論文数は,毎年約70編

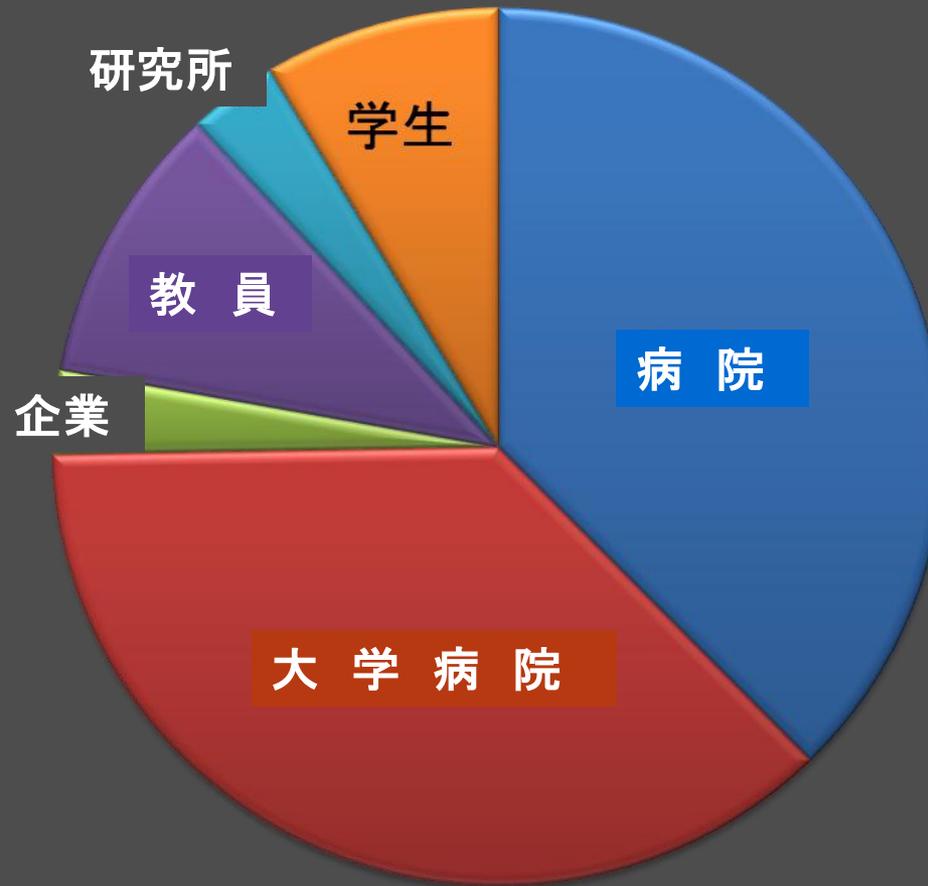
論文投稿者の年齢



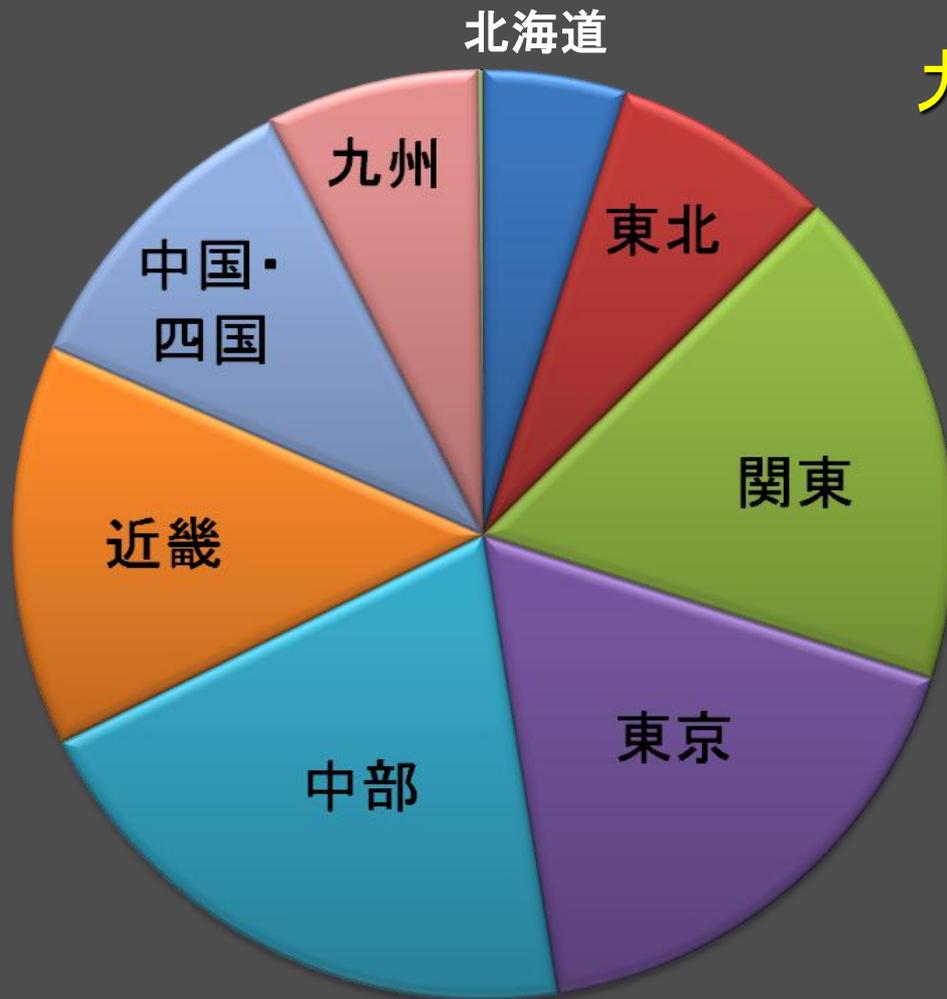
投稿区分と分野



投稿者の所属



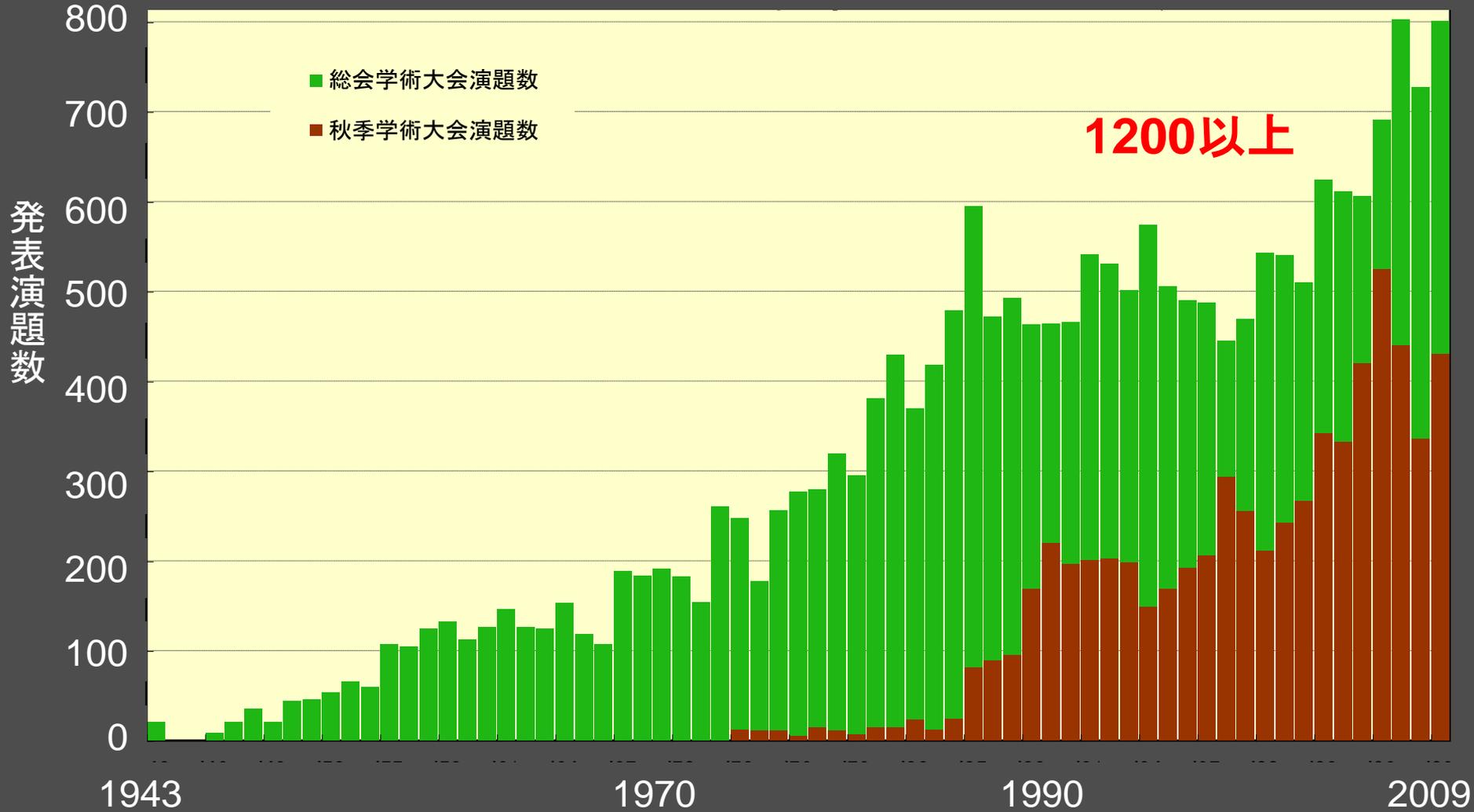
地方別の投稿数(6年間)



九州部会 年間7編以下

中部部会	111	(2375)
東京部会	96	(2464)
関東部会	96	(3034)
近畿部会	77	(2554)
中国四国部会	60	(1712)
東北部会	42	(1900)
九州部会	40	(1576)
北海道部会	27	(1083)

春と秋の学術大会での発表演題数



年次別投稿数の推移

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	計
投稿論文数	87	96	104	73	97	93	550

投稿数：約90/年 発表数：1200/年

わずか7.5%しか
論文投稿されていない！！

学会員の学術活動は
学会場での研究発表数よりも
論文の数と質で評価される

“研究発表数” と “論文発表数” の
ギャップを埋めることが
学会ならびに学会員の最重要課題

何のために論文を書くのか？

- 研究実績を誰もが認める形で残せる
- 大学院進学や学位取得には必要不可欠
- 業績を積んでいくと他の人に認められる
- 認められれば新しい道が開ける